

入居者インタビュー



今回お話を伺った
桂 紀美子さん

『私は、歌が大好き。歌と共に人生を
過ごしてきた』

桂 紀美子さん（75歳）は、平成25年
に入居。インタビューをさせていただ
きました。

「手に職を」持って大阪へ。歌が結ん
だ主人との縁

三重県で生まれ育ちましたが、学校
卒業後に東京に行き、美容師になっ
て大阪に出てきました。母が専業主婦で、
父と別れた時に手に職が無かった為、
大変困っていたのを見ていたので「手
に職を」と思い資格を取り、旧守口市
駅の美容院で12年間働いてきました。
大阪に出てきて、もう50年になります。
もう一つ私になくてならないものは
歌です。亡くなった母の影響でしょう
か、悲しい気持ち・嬉しい気持ちに係
わらず、ラジオやTVから聞こえてく
る歌を聞きながら、歌って来ました。
その歌のご縁で、37歳の時にバイオリ
ンを弾く主人と知り合い結婚。大阪市
内で姑と義娘達との生活がスタートし

ました。七歳年上の温厚で口数の少な
い人でしたが、ここぞという時にちや
んと助言してくれました。

主人と永遠の別れ、自分で選んだ新し
い生活

そんな主人が52歳の時に脳梗塞に
なりました。杖について歩けるようにな
ったものの、その後の約10年間色々
な病気を患い亡くなりました。私が55
歳の時でした。主人は治って元気にな
ると信じていたようですが叶いません
でした。私は出来る限りの看病をした
ので、亡くなった時は、「もう寿命なん
だ」と受け止めることができました。

一人になって自分のリズムを取り戻
した私の新生活は、早朝の散歩を日課
にし、庭の花・木々の水やりや手入れ
をしてから一日が始まるというもので
した。食事は栄養バランスを考え手作
りです。

地元のコミュニケーションクラブに
入会し、社交ダンスやコーラス・カラ
オケやハイ
キングを楽
しんだり、
ホテルでの
シャンソン
の発表会に
は手作りの
衣装で出演
したり、大変充実した生活でした。し



ホテルでシャンソンの発表会

かし、老後は不安です。「元気で若いう
ちに里に入居して、このままの生活を
里でも続けられたら良いなあ・・・」
という思いがつのり入居を決めました。

歌とともに自分が思った通りに生きて
行きたい

閑静な住宅地だった香里園から守口
駅前にと、入居後は生活環境がずいぶ
ん変わりました。だから入居前に「少
し寂しい。」と思ったことがありました。
でも引越しの荷造りをしている時には、
「周りの環境が少し変わっただけ」と、
すぐ頭を切り替え、吹っ切れました。

今は里の行事・サークルや、外部の
カラオケにも参加し、旅行にも行っ
て大いに楽しんでいきます。毎朝会う散歩
仲間とも、日曜日毎に女子会をして、
楽しくお喋りしています。知人から教
えてもらった大阪市北区のエルサラー
ンホールでの、懐かしの歌のコンサ
ートは毎月一回あり、とても楽しみに
しています。

私のモットーは「自分がしようと思
ったことはするけれど、そうでもない
のはしない。そうすればストレスにな
らない。我が道を行く」です。自分が
決めた道に行くんですものね。

◇ ◇ ◇

「したいことは、まだまだ今から見つ
けたい」という桂さん。これからも歌
と共に我が道の旅を続けて下さいね。